

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092400021		
法人名	(株) イクロス		
事業所名	グループホーム アネックス パル		
所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町2666		
自己評価作成日	平成27年5月15日	評価結果市町村受理日	平成27年8月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3092400021-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成27年6月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が一人ひとりのペースで、ゆったりとした自分らしい生活が送れることを目標にしています。利用者様の居心地の良い場所を作る為に職員みんなで相談しながら、絶えず工夫しその人のための居場所づくりに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、小規模多機能型居宅介護事業所と併設され、道路を挟んで法人が運営する通所介護やグループホーム、居宅介護支援事業所もあり、法人の理念のもと「共に一緒に歩こうよ」とホーム独自の理念を掲げています。焦らせず一人ひとりのペースに合わせたケアとなるよう管理者は職員には具体的に説明と指導を行い理念にそったケアを実践しています。また管理者は地域で認知症ケアをしている家族に何かできる支援がないかを考え認知症サポーター講座などホームが地域へ貢献できるよう前向きに検討しています。利用者の希望を聞き出身地までお墓参りに行く個別の外出や看取りの支援で職員は利用者の側へ寄り添い、最期を迎えられた利用者や家族、医師、看護師からも多くのことを学び、チームワークで日々支援ができるように努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者の尊厳」を重視し開所前に職員みんなで考えた理念であるため職員は理解し実践につながるよう努力し、利用者一人ひとりのペースに合わせた支援を心掛けている	利用者の尊厳を守るケアやチームワークを高めることを謳った法人の理念の基、ホーム独自の理念に「共にゆっくり歩こうよ」と掲げ、利用者のペースに合わせたケアを意識して支援しています。2ヶ月に1回の会議の場では業務優先とならないよう尊厳を守り個々に合ったケアができているか話し合っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の情報は、白浜だよりや、回覧板で得、お祭りや演奏会、運動会等、地域の行事等にはなるべく参加し、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるように支援しています	自治会に加入し回覧板やポスターで地域の情報を得、夏祭りや夜店に出かけたり、小学校で行う地域の交流会にも招待されています。小学校や保育所の運動会、お遊戯会も見に行き子供達とふれあい、また地域の方の歌や踊りのボランティアや僧侶の法話があるときにはデイサービスに行き交流しています。また日常的に散歩で出会った近所の方と挨拶を交わしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、事業所の力を活かし地域に貢献している。職員は日々の実践を通じて認知症の人の理解や支援の方法を身に付け、地域の人々に活かすことができるように努力している			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の近況や、サービスの報告を行い、参加して頂く立場の違う方々からの意見やアドバイスを受け、日々のサービスの向上につなげている	会議は地域住民、地域包括支援センター職員、家族代表の他、時には介護保険課からの参加もあり、2ヶ月に1回開催しています。現状や活動の報告、事故報告後に意見交換を行い、防災訓練について案内をしたり、介護保険制度について行政より説明をしてもらっています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村には頻繁に出向き、担当者とは密に連絡を取りあい、協力、信頼関係を築けている	市の担当者は運営推進会議に参加する時もあり、ホームの実情を知ってもらっています。手続きや議事録の提出、相談事などがあれば窓口へ出向き、電話でのやりとり等でも協力関係が築けるよう努めています。市からの研修案内が届いたときは必要に応じて参加しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は社内・外研修に参加し身体拘束について学ぶ機会を持ち、身体拘束ゼロ推進委員会を設置し、身体拘束をしないケアに取り組んおり、日常の些細な支援が身体拘束にあたる事例ではないかと絶えず考え行動するように取り組んでいる	身体拘束マニュアルや身体拘束委員会があり、外部や社内研修の中で身体拘束について知識を深め、欠席者には資料で理解をしてもらっています。また日常生活の中で何気なく行なうケアや言葉が拘束に繋がることも含め具体的に説明しています。ホームの入り口や玄関は自由に出入りでき、外に出る場合は一緒に付き添っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、社内・外研修に参加し高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会があり、日常的に虐待が見過ごされていないか、常に注意を払い防止に努めている			

グループホームアネックスパル

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する社内・外研修に参加し、学ぶ機会を持ち、必要性が生じれば関係者と話し合い活用できるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、不安や疑問点があれば、それらが解消できるように十分な説明を行い、不安を解消し、理解、納得して頂けるように心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が面会時に、職員と話しやすい雰囲気づくりを心掛け、不満や意見、要望をくみ取れるようにしている。また運営推進会議の場や、家族会、介護相談員を受け入れることで外部者にも意見や、要望を表せる機会を設けている	介護相談員の受け入れや運営推進会議、家族会、介護計画についての説明時に意見や要望を聞いています。面会に来られた時には状態の説明をしながら信頼関係を築けるよう言いやすい雰囲気作りに努めています。散髪や受診についてはホームで対応してほしい等の要望があり個々に対応するなどサービスの向上に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2カ月に1度会議をもち、職員の意見や提案を聞く機会を設けたり、常時気が付いたことがあれば話し合いながら運営に反映させている	法人全体で2ヶ月に1回会議があり、その後に行うグループホーム会議で職員の意見を聞いています。日常的にも何でも気軽に話せる雰囲気作りに努め、日々のケアのあり方や対応について等都度話し合わせ、記録や報告の大切さについて確認し合うなど、スキルアップやサービスの向上に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得など個々のスキルアップのために協力し合い職員一人ひとりが向上心を持って働けるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2カ月に1度、社内研修を実施し、時には外部講師を招いた研修も行い参加を義務付けている。また一人ひとりの力量を把握しレベルに合った研修に積極的に参加する機会を設け職員のスキルアップを求めるとともに、サービスの向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加したり、実習生の受け入れの場として提供することで、職員が同業者と交流する機会を作り視野を広めると共に、その時出されて意見や、提案はサービスの向上に取り入れている		

グループホームアネックスパル

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に寄り添い会話する中で本人が困っていること、不安や要望等を等に耳を傾け、家族からの情報も踏まえて本人の安心を確保するための関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の安心を考えた上で、家族が困っていること、不安なことが解消でき要望等にも耳を傾けて家族にも安心して頂けるような信頼関係が築けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際には、本人や家族、それらを支えている関係者から十分な情報を収集を行い、本人の状態を把握したうえで、本人が今一番必要としている支援を見極められるように努力している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの力量と、できる事、出来ないことを把握し、暮らしを共にする者同士、助けたり、助けられたりの関係を築けるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設側ですべてを行い、家族を除外するのではなく、家族にも協力して頂きながら、共に本人を支えていける関係が築けるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの病院や、スーパー、理容店等を出来る限り利用し、今までと変わらない関係が続けていけるように支援している	かかりつけ医の受診や今まで利用していたスーパーや理美容室に行けるよう支援したり、姉妹から絵手紙が届いたり電話の取り次ぎを行う等、馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援に努めています。家族に伝えて出身地の墓参りや家族と一緒に温泉旅館が実現したり、自宅に行くこともあります。また、親せきや近所の方、職場の友人等が面会に来られた時は居室や相談室でゆっくり過ごしてもらえるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性や性格、感情の起伏等を把握し利用者同士の関係性を見極めながら、問題があれば改善し、利用者が孤立することなく、安心して支え合える関係づくりに努めている		

グループホームアネックスパル

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了は、本人の死亡が伴っており、地域で暮らす家族とは、外出先で会い挨拶や、世間話をさせて頂き、馴染の利用者の近況報告などをしたりし、散歩途中で立ち寄ってくれたりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が安心し、満足して過して頂けるよう、一人ひとりの思いや、暮らし方の希望を把握できるように努めている	入居前の面接で利用者や家族から今までの暮らしや生活歴など聞き、前のケアマネジャーの情報も取り入れています。入居時には改めて暮らし方の希望や思いを聞き、入居後は関わりの中で発した言葉や表情、しぐさなど見ながら思いに繋がるような情報をアセスメントシートに追記し、思いを汲み取るよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を、本人、家族、関係者から十分に伺い、本人の暮らし方が把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から一日の過ごし方や心身の状態、有する能力等の変化に注意し、日々一人ひとりの現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを基に、必要な関係者や職員からの現状報告や連絡、意見を反映させ本人らしい暮らしができるように現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを行い、利用者や家族に思いや意向を聞いて介護計画を作成しています。3ヶ月毎に行うモニタリングで職員に意見を聞き実施状況を把握し評価を行い、更新時に再アセスメントを行い見直しをしています。変化があれば都度見直し、安全面や体調管理について医師や看護師に聞いた意見も介護計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式D-4焦点情報を基にした個人記録を活用し利用者一人ひとりの情報を職員間で共有し支援や介護計画の見直しに活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれる利用者のニーズに対応できる支援を心掛けている必要に応じて職員の増員も行えるように取り組んでいる		

グループホームアネックスパル

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や小学校の行事に参加させて頂いたり、ボランティアの訪問を受け歌や踊りを披露して頂き、知っている歌が始まれば口ずさみ参加いつもの生活とは違う雰囲気を感じ暮らしを楽しむことができるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人や家族の希望を大切にし家族の協力を得ながらかかりつけ医に受診しているが、ほとんどの利用者がホームの協力医である。本年度より協力医の訪問診療を受け、より適切な医療を受けられる体制を整えることができた	入居時にかかりつけ医の継続が出来ることを説明し、かかりつけ医が協力医でもある方もおり、職員が受診の対応をしています。歯科や専門医への受診も家族の希望で職員が対応し、情報の提供や受診後の結果は家族に報告をしています。月2回と随時の往診があり、訪問看護師は健康管理に週1回の訪問があり連携が図られ、緊急時は24時間連絡が取れる体制を整えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、訪問診療に同行してくれている看護師とは、密に連絡を取り日常生活の中の気付きや情報を伝え、24時間体制で受診や、看護が受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際にはできる限り面会に出向き病棟の看護師と馴染の関係を築き、些細な情報も得られるようにしている。退院時には病院関係者との情報交換に努めより良い関係作りの努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所ができる事を説明させて頂き、その後重度化した場合や終末期のの在り方について家族の要望を聞き必要となった場合には、家族、訪問診療の医師、訪問看護師、関係者と共にチームでの支援に取り組む体制を整えている	入居時に看取りの指針に基づいてホームで対応出来る範囲等を説明しています。看取りの支援が必要になった時には医師が家族に説明し、意向を聞き同意をもらい支援しています。頻繁に往診があり医師や看護師のアドバイスを受け、家族の協力の中で看取りの経験があり、利用者の側に寄り添いケアを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に白浜消防署の協力で行う事故発生時に備えた研修の参加を義務付け、訓練を重ねることで実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練は年2回行い、消防署の協力で行う消火、避難訓練には利用者と一緒に参加し一人ひとりの力に応じた避難方法や、避難経路を確認し防災意識を高めている	避難訓練は年2回で内1回は消防署の立会いの下夜間を想定し、通報や初期消火、避難誘導等を利用者と一緒にしています。自主訓練は設備会社より通報システムの使用方法や消防署の指導の下、AEDの使い方や心肺蘇生の指導を受け全職員が実践できるようにしています。運営推進会議時やデイサービス利用の家族にも参加を呼びかけています。	

グループホームアネックスパル

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を理解し、力に応じた声掛けを行いプライバシーや誇りを損なわないよう対応に注意している。不適切な声掛けや対応があった場合にはその都度注意し利用者の尊厳が守れるように指導している	トイレ誘導時には小声でさりげない声かけを行い、ノックをして訪室することや、会話や日々の支援の中で利用者のその時々にあわせた名前の呼び名や対応に努め、一人ひとりの尊厳を守るケアを心がけています。不適切な対応が見られる場合は管理者がその都度指導し、接遇マナーや人権など様々な研修の場で学ぶ機会もあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや、希望を聞き、自己決定ができるような働きかけを心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで毎日を自由に過して頂いており、散歩やドライブ等の希望があればできるだけ希望に添った支援ができるように心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日着る服は自分で準備し着用しておられる人が数名おられ、準備できない方には好みなどを聞きながら準備させて頂き着用して頂く。ヘアスタイルや毛染めなどが気になっている人にはかかりつけの美容室に行けるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みの物を聞き、献立に取り入れたり、一緒に買い物に行き食材を選び、本人の力に合わせた食事の準備や片付けをして頂いている。味付けや、見た目にも食欲が増すような盛り付けに気を配っている	利用者の希望を聞き職員が献立を考えています。買い物は2日に1回利用者と一緒に行き食材を選んでもらったり、盛り付けや豆の皮剥き、巻き寿司を巻く、後片付けなど出来ることに携わっています。職員は同じものを食べ会話をしながら食事を楽しんでいます。回転寿司やとれとれ市場へ行き好きな物を食べに外食に出かけたり、花見やアドベンチャーワールドへの外出には弁当を作っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事バランスを考えた献立を作り、一人ひとりの食べる量や水分量を把握し本人の状態や力に応じた支援を行っている。いつでも自由に水分補給ができるようにフロアーにお茶を準備させて頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力に応じた口腔ケアを行って頂き、義歯を使用している方には夕食後以降に預かり入れ歯洗浄剤を使用し、洗浄させて頂いている		

グループホームアネックスパル

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力に応じた排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるように支援している	排泄チェック表で個々のパターンを把握し、時間や表情を見ながらトイレでの排泄を支援しています。ほとんどの方が布の下着で過ごされ、入居時に紙パンツの方も布の下着に変更したり、おむつから屋間の時間帯は紙パンツで過ごしてもらえるよう工夫をし、排泄の自立に向けた支援を心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、水分量や食事内容を工夫したり、運動への働きかけを行い予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できる限りh時摂り一人の希望に添い入浴して頂いている	日中の時間帯で基本的に週3～4回を目途に順番に声をかけ入ってもらい、毎日入浴も可能です。利用者は好みの石鹸やシャンプー、こだわりのタオルを使用してゆっくり入浴を楽しんでもらっています。立位が出来ない方は二人介助で入浴してもらい、拒否される利用者については無理強ひせずタイミングを見て声かけをして入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は共有スペースや各居室で自由に過ごして頂き、夜間は、個々の居室で休んで頂くようにし、就寝中は室温や入眠状態に気を配り安心して眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬している薬の表を作り、いつでも確認できるようにしており、一人ひとりの力に応じた服薬支援を行い、症状の変化にも注意を払っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に応じた役割を持って頂き、役割を発揮できる場を持つことで張りのある生活が送れるように支援し、趣味などで楽しめる時間を作るようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添った外出ができるように努め、希望に添えない場所には家族にも協力をして頂いている	利用者の希望で近所を散歩したり、敷地前にあるログハウスへ出かけています。弁当を持って遊園地や季節の桜や菜の花を見に出かけたり、買い物を兼ねてドライブで観光地を散策しています。地元の墓参りに行きたいという希望も実現したり、家族と一緒に買い物や外食にも出かけています。	

グループホームアネックスパル

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何人かの利用者は、家族に紛失の可能性があることを説明させて頂き了解を得たうえでお金を所持しておられるが、使用するまでは至っていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいという申し出があれば共有スペースの電話を使用して頂く。手紙を書いたりはしておられず、手髪を受けたり、電話があれば取り次いでいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では不快な思いや混乱をまねくような刺激がないように配慮し、自然の風を取り入れたりし、居心地の良い空間づくりを心掛けている	温度・湿度の管理や窓を開け換気を行い、簾で光の調節をする等、居心地の良い空間作りに努めています。広いリビングや廊下にはテーブルやソファ、畳式のソファの配置を工夫し、一人になれる場や気の合った方が過ごせる居場所となるよう配慮がなされています。観葉植物を置き、写真や利用者で作った季節の作品を飾っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では利用者が必要とする場所にソファやいすを配置し、思い思いに過ごせるように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の安全を考慮し、本人に必要と思われるものを家族が自宅から持ってこられ、心地よく過ごせる空間を作ってくださっている	居室には自由に持ち込みが出来る事を伝えています。仏壇や位牌、ベッド、寝具、冷蔵庫、テレビ、藤の椅子、姿見等自宅ですべていた物や大切にしてきた物を持ち込み、家族と相談しながら配置を考えています。家族の写真ぬいぐるみを飾り、その人らしい居室となるよう配慮しています。畳や絨毯の生活も可能で、今までの生活が継続でき安全で過ごしやすい居室作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり状態を把握し、力を活かして安全を重視し出来る限り自立した生活が送れるように工夫している		